

まなびや

福井県出身二人の偉業

平瀬作五郎・瓜生寅

製図・図工・図画教科書

明治期、中学校の教科に図画があり、その中に「用器画」の学習がありました。「用器



平瀬作五郎(1856-1925)



用器画法 一八八二(明治15)年

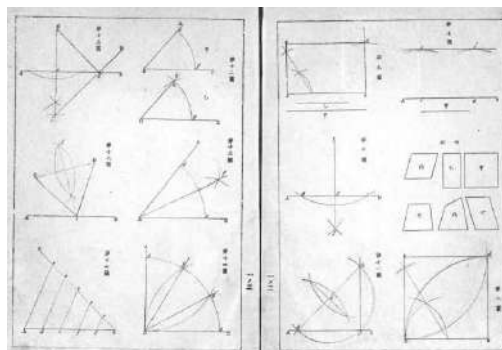


画」とは、定規やコンパスなど器具を用いて平面図や立体図を作図する技法で、製図の基本とも言えます。

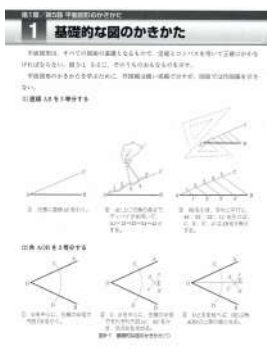
最も初期の「用器画」教科書のひとつが、福井市出身の植物学者、教育者平瀬作五郎が編纂した『用器画法』です。

これは、一八八二(明治15)年、平瀬が岐阜県中学校の図画教師として在任中に作成した教科書で、西欧の幾何学法を導入した画期的な教科書として全国各地の中学校で用いられるようになりました。その後、一九四三(昭和18)年まで60年余りにわたってベストセラーとして使われました。

「用器画法」は大変評価が高く、洋画の基本的な技法や、定規・コンパスの器具を用いて、正確に作図や設計ができる技術を学ぶためのものでした(用器画法図式は、用器画法の解答図にあたります)。



現在の高校「工業・製図」の教科書にも、線分や角の等分、垂線の書き方など基本的な図形の書き方が同様に記載されています。基礎的な図の書き方は、今も全く同じです。



【高校工業科用・製図教科書】

日本初のものづくり教科書

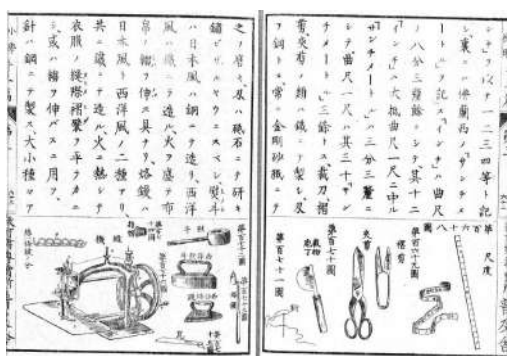


瓜生寅(1842-1913)

明治の初め、小学校には技術・家庭科の前身の教科として、「農業」「工業」「商業」「水産」「手工」がありました。その一つ「手工科」のわ



手工篇 第三 1887(明治20)年 小浜市立図書館蔵



が国最初の教科書『小学校用手工篇』を著したのが、福井市出身の瓜生寅です。

瓜生は、漢学、蘭学、英学を学び、幕府の英語学校教授を務めていました。一八七〇(明治3)年に新政府に登用され文部省、大蔵省、工部省などに勤務、一八七二(明治5)年の学制立案者の一人でもありました。瓜生は、一八八七(明治20)年に『小学校用手工篇』第一、第二、第三の三冊を刊行しました。この教科書で、陶工、石工、織工、仕立屋など、熟練が必要な職人に技能の教育がなされました。

企画展
創造とものづくり
技術・家庭科のあゆみ
10月5日～12月8日

今回の展示では、戦後の職業・家庭科から技術・家庭科の誕生、そして現在の技術・家庭科までの学習形態や学習内容の移り変わりを紹介します。教科書、実習用具や製作物などの資料を見て、触れて、技術・家庭科について楽しく学んでください。

関連クラフトワークショップ
詳細はHPをご覧ください